

「総合防災ハザードマップ」の使い方

STEP1 ハザードマップで危険区域を確認

総合防災ハザードマップには、詳細な場所がわかる冊子版と、市全域がわかる全体版のマップがあります。ハザードマップの種類は4種類ありますので、それぞれ確認しましょう。

ハザードマップの種類	掲載ページ		説明
	冊子版	全体版	
津波ハザードマップ	P20	○	地震の影響で、沿岸部等に津波が発生した場合の危険区域を示したものです。
高潮ハザードマップ	P21~P22	○	雨や台風の影響で、沿岸部に高潮が発生した場合の危険区域を示したものです。
ため池ハザードマップ	P23~P24	—	雨や地震の影響で、ため池が決壊し氾濫した場合の危険区域を示したものです。
洪水・土砂災害ハザードマップ	P31~P60	○	雨の影響で、河川の氾濫やがけ崩れ等が発生した場合の危険区域を示したものです。

1. 自宅の位置を確認しましょう

ハザードマップで自宅の位置を確認して○印をつけましょう。

2. 災害別の避難先・避難経路を確認しましょう

災害別の避難先を確認して○印をつけ、避難先までの安全な避難経路を確認しましょう。

避難行動…P11~P12、P14
避難所一覧…P13~P14

3. 実際に歩いて確認しましょう

避難経路を実際に歩いて、ハザードマップの内容のほかに、危険な場所や目印となる場所を確認しましょう。



自宅以外によく行く場所
(学校、会社、スーパー、
コンビニ等)の周辺も
確認してみましょう。

STEP2 正確な情報を確認

● 防災情報を収集しましょう (P9~P10)

● 災害別の特性を確認しましょう (P17~P28)

STEP3 日頃の備えや避難について確認

● 日頃から災害に備えましょう (P5~P8、P16)

● 避難行動 (P11~P12、P14) や避難所生活 (P15) について考えましょう

危険区域を確認したら
ハザードマップや「防災カード」に
書き込みましょう。

事前に災害情報の
確認やメール、
アプリの登録を
しましょう。

スムーズに避難
できるように災
害備蓄品に
チェックを
しましょう。

※緊急時の避難に備え、必要になるものをまとめましょう！

裏表紙にもポケットがあるので有効活用してください。

荒尾市の土地特性と災害特性

荒尾市の土地特性

荒尾市は、熊本県の西北端に位置し、北は福岡県大牟田市、東は小岱山頂を境として玉名郡南関町、玉名市、南は玉名市・長洲町に接し、西は有明海を隔てて長崎県・佐賀県に面しています。

市域は東西10km、南北7.5kmで、面積は57.37km²。東部には本市最高峰の小岱山(筒ヶ岳501.4m)を擁し、西の有明海へとつながる丘陵が起伏しています。河川は、関川、浦川、菜切川、行末川が主要なもので、小岱山から西流あるいは南流し、いずれも有明海に注いでいます。

気象は年間平均気温が16.3℃、年間積算降雨量が約1,780mmで、風向きは北風が最も多く、降雪は少なく、季節風もあまり強くない、温暖で四季の変化に富んだ住み良い地域です。

土地特性や
自宅周辺の災害リスクを
確認しておきましょう！



荒尾市で発生が想定される災害



出典:国土地理院ウェブサイト
https://maps.gsi.go.jp/
development/ichiran.html
地理院タイル (色別標高図) を
加工して作成

地震



熊本地震 熊本県益城町
【出典:熊本地震デジタルアーカイブ/
提供者:鳥取県東部広域行政管理局消防局】

津波



東日本大震災 岩手県釜石市港町
【出典元:東北地方整備局釜石港湾事務所】

洪水



令和2年7月豪雨 熊本県荒尾市
【出典:荒尾市】

土砂災害



平成30年7月豪雨 広島県三原市
【出典:地域の砂防情報アーカイブ】

荒尾市周辺で過去に起きた災害

昭和37年梅雨前線豪雨

7月1日から8日にかけて梅雨前線が九州北部に停滞し、7日から8日は低気圧の接近で前線の活動が活発となって、大雨になりました。

長崎県や佐賀県では24時間降水量が200mmを超えた所がありました。

本市においてはこの豪雨により死者3名、行方不明者1名、床下浸水5,000戸以上の被害が発生しました。

島原大変・肥後迷惑

雲仙普賢岳は1791年から1792年に寛政噴火が発生し、1792年の噴火の末期に2回発生したマグニチュード6クラスの強い地震によって、眉山が大規模な山体崩壊を起こしました。

その土砂が有明海に流入したことにより大津波を発生させました。

この大規模な山体崩壊と大津波による犠牲者は、対岸の肥後・天草(熊本県)とあわせておよそ1万5千人に達し、荒尾・長洲地域においても住家への浸水被害が発生しています。

令和2年7月豪雨

荒尾市の被害状況は
次のページへ

7月3日から8日にかけて梅雨前線の停滞と活動の活発化により、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨となりました。熊本県は他6県に大雨特別警報が発表されました。

特に、九州北部においては、6日午後から夜間及び7日夕方から夜にかけて局地的に猛烈な雨が降り、各地に甚大な被害をもたらしました。

本市においては、340件を超える家屋被害(令和2年12月末時点)が発生しており、その他にも土砂災害や道路冠水、倒木などの被害が多数報告されました。

はじめに

日頃から備える

避難について

災害から身を守る

洪水・土砂災害ハザードマップ

役立つ防災知識